

平成 28 年度事業報告書 附属明細書

附属明細書 1 会員一覧

附属明細書 2 主催セミナーに関する事項

附属明細書 3 留学生会館入居状況

附属明細書 4 留学生論文の表彰に関する事項

## 会員一覧

平成 29 年 3 月 31 日現在

No.	協力会員名称	No.	協力会員名称
1	埼玉大学	23	帝京大学
2	千葉大学	24	東京経済大学
3	東京工業大学	25	東京工科大学
4	東京外国語大学	26	東京都市大学
5	東京学芸大学	27	東洋大学
6	東京農工大学	28	日本女子大学
7	お茶の水女子大学	29	法政大学
8	電気通信大学	30	明治大学
9	一橋大学	31	明星大学
10	国際教養大学	32	立教大学
11	首都大学東京	33	立正大学
12	青山学院大学	34	早稲田大学
13	桜美林大学	35	東洋英和女学院大学
14	大妻女子大学	No.	準協力会員名称
15	慶應義塾大学	36	東京工業高等専門学校
16	工学院大学	37	白梅学園短期大学
17	国際基督教大学	No.	賛助会員名称
18	駒澤大学	38	(株)幼体連スポーツクラブ
19	順天堂大学	39	(株)スリーボンド
20	上智大学	40	ユニバーサルプロジェクト(株)
21	創価大学	41	安藤物産(株)
22	中央大学	42	多摩信用金庫

事業名	憲法を学問する												
期日	6月11日(土)～12日(日)												
主題	憲法を学問する												
対象	大学生、社会人												
趣旨	<p>「憲法を本格的に勉強してみようと思うのですが、どういう本を読んだらよいのでしょうか？」— 一般市民向けのセミナーで、そういう質問を受けるとき、思わず考え込んでしまう。</p> <p>メディアで提供されるのは、断片的な憲法解説ばかり。現政権下で憲法問題が政治的争点となっている以上、主権者の1人として、自分なりに納得がゆく程度までは勉強し、プロパガンダにだまされない批判的な眼を養いたいが、どうすればよいのか。そういう市民や学生の「本気」に応えるには、どの本も帯に短しタスキに長し、これを読めば大丈夫、という本が見当たらない。或る憲法学の泰斗が「入りやすく、大成しがたい」という至言を残しているように、憲法は、最もなじみのある法であるにもかかわらず、実は非常に勉強しにくいのだ。</p> <p>「大成しがたい」分野であるのは、研究者にとっては大いなる魅力だ。ようやく一山越えたと思ったら、その先には、知的好奇心をそそる新たな研究課題が待ち受けているのだから。しかし、いくら勉強してもキリがないというのは、一般の学習者にとっては、困りものである。果てのない分野であればこそ、とにかく勘所をつかむのが先決であるが、そのためには、研究者になって、10年単位で研究対象に沈潜する必要があるとは。ああ、なんてこと！</p> <p>そうしたなか、大学セミナーハウスの発案により、一般の市民や学生が、研究者と直接に交流し、ともに学び考える合宿が企画されることになった。</p> <p>講師には、戦後憲法学のレジェンド・樋口陽一教授をはじめとして、各世代を代表する憲法研究者たちが揃った。「憲法学の体系」をめぐる樋口陽一／石川健治の師弟対論に加えて、4つの分科会における講義・演習を交えた、盛りだくさんの内容である。テーマごとの分科会への参加は、抽選による割当ての形によらざるを得ないが、講堂での全体会において、各分科会での討議内容の報告、総括討論が行われるほか、他の分科会の講師・参加者とも交流する場が、積極的に設けられている。</p> <p>とかく政治的・党派的な文脈で扱われがちな憲法。これを「学問する」とはどういうことか。大学生・大学院生のみならず一般市民にも門戸を開いて、講師たちとともにじっくりと考える機会にしたい。</p>												
講師	樋口 陽一 (東京大学名誉教授・東北大学名誉教授) 石川 健治 (東京大学法学部教授) 蟻川 恒正 (日本大学大学院法務研究科教授) 木村 草太 (首都大学東京法学系教授) 宍戸 常寿 (東京大学法学部教授)												
定員	60名												
参加者	58名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <table border="1"> <caption>アンケート結果 (満足度)</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>悪かった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	とても良かった	80%	良かった	12%	無回答	5%	あまり良くなかった	3%	悪かった	0%
満足度	割合												
とても良かった	80%												
良かった	12%												
無回答	5%												
あまり良くなかった	3%												
悪かった	0%												

事業名	第5回EUセミナー
期日	9月23日（金）～25日（日）
主題	EUの新たな試練——英国のEU離脱後のヨーロッパ——
対象	大学生、社会人
趣旨	<p>本年はEUの現状を複眼的に考察し、EUがどのように新たな試みを行おうとしているのか、をテーマとする。昨年大きく取り上げられた難民・テロをはじめとして、毎年話題となるギリシャ財政危機とEU通貨・財政政策の行方、そしてイギリスのEU離脱をめぐる国民投票の影響などはEUが直面する当面の大きな課題である。難民・テロ問題はシェンゲン条約の法的枠組み、EU市民、排外主義など人の移動をめぐるさまざまな課題をあらためて浮き彫りにしている。</p>
講師	<p>フランチェスコ・フィニ（駐日欧州連合代表部 公使／副代表）  田中素香（中央大学経済研究所客員研究員／東北大学名誉教授）  太田瑞希子（亜細亜大学国際関係学部講師）  蓮見雄（立正大学経済学部教授）  中西優美子（一橋大学大学院法学研究科教授）  福田耕治（早稲田大学政治経済学術院教授／日本EU学会理事長）  押村高（青山学院大学国際政治経済学部教授）  渡邊啓貴（EUセミナー企画委員長／東京外国語大学国際関係所所長・教授）  小久保康之（東洋英和女学院大学国際社会学部教授）</p>
定員	80名
参加者	93名
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <p>無回答 11%</p> <p>とても良かった 40%</p> <p>良かった 30%</p> <p>あまり良くなかった 19%</p> <p>悪かった 0%</p>

事業名	吉笑ゼミ。
期日	11月12日（土）
主題	宇宙と落語のコラボレーション～知る喜び、知られる喜び～自分らしく考える
対象	大学生、社会人
趣旨	<p>知らないことを知ることは楽しい。 知らないことを知ることは嬉しい。</p> <p>机、パソコン、柔らかい風。 陽射し、炭酸水、鳥の声。 水道、バウムクーヘン、貧乏揺すりする自分。</p> <p>柔らかい風はどんな風？ 炭酸水が細かくパチパチ言うのはなぜ？ 蛇口をひねったらどうして水が出てくる？</p> <p>思えば知らないことって目の前にたくさんあって、だから、知らないことを知る。 それを娯楽と思えるならば、たちまち毎日が楽しくなる。</p> <p>吉笑ゼミとは、落語家・立川吉笑が主催している落語会。物理学者や哲学者、開発者や実況アナウンサーなど、各分野の専門家を毎回ゲストに招き、その講義（題材講演）の内容を元に落語を創作する、実験的なイベント。</p>
講師	立川吉笑（立川流落語家） 長谷川哲夫（自然科学研究機構国立天文台・チリ観測所上席教授）
定員	120名
参加者	129名

事業名	第33回大学職員セミナー（日帰り）												
期日	7月1日（金）												
主題	職員が拓く大学の未来——大学職員に期待されるもの——												
趣旨	大学に対する社会の期待が一層高まる中、他方でその経営環境は急速に厳しさを増している。一人ひとりの教員と職員が高い使命感と強い危機感を持つことが不可欠だが、教育・研究における組織的取組や経営力の強化のために、大学職員が果たす役割は飛躍的に増しつつある。そのことにどう応えるべきか、具体的・実践的に考えてみたい。												
講師・企画委員	吉武博通（筑波大学大学院教授・大学研究センター長） 近藤清之（法政大学学務部長・入学センター長）* 青木加奈子（高崎経済大学研究グループ 研究支援チーム）* 岩崎宏政（明治大学社会連携事務室事務長）* 大久保陽造（中央大学入学センター入学企画課課長）* 山本眞一（桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授）*												
定員	50名												
参加者	55名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <table border="1"> <caption>アンケート結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>悪かった</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	とても良かった	74%	良かった	24%	無回答	2%	悪かった	0%	あまり良くなかった	0%
満足度	割合												
とても良かった	74%												
良かった	24%												
無回答	2%												
悪かった	0%												
あまり良くなかった	0%												

（注）\*印は企画委員

事業名	第6回新任教員研修セミナー												
期日	9月5日(月)～7日(水)												
対象	国・公・私立大学等で授業を担当する新任教員												
趣旨	大学入試改革と呼応して、従来は一方的な知識の伝達・注入に偏りがちだった高校や大学での学びに、「生徒・学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニング」の導入が求められています。本セミナーでは、参加者及び講師との交流を通してアクティブ・ラーニングを体験的に学び、それぞれの教育実践につなげることを目的としています。												
講師・運営委員	安岡高志(立命館大学教授) 有賀清一(桜美林大学講師) 村山光子(明星学苑法人本部企画部課長) 佐藤順子(セミナーハウス・ファシリテータ) 菊地滋夫(明星大学教授)** 荒木晶子(桜美林大学教授)** 江夏由樹(一橋大学特任教授)** 北原和夫(東京理科大学教授)* 史 傑(電気通信大学教授)**												
定員	40名												
参加者	37名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <table border="1"> <caption>アンケート結果 (満足度)</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>悪かった</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	とても良かった	73%	良かった	24%	無回答	3%	悪かった	0%	あまり良くなかった	0%
満足度	割合												
とても良かった	73%												
良かった	24%												
無回答	3%												
悪かった	0%												
あまり良くなかった	0%												

(注) \*印は企画委員、\*\*印は運営委員を兼ねた講師

事業名	第 34 回大学職員セミナー										
期日	11 月 25 日（金）～26 日（土）										
主題	大学職員の可能性——大学改革を牽引する職員を目指して——										
趣旨	<p>近年の教育改革の流れ、特に高等教育に関わる改革・改善の流れは急速になっています。本年 3 月 31 日に出された「高大接続システム改革会議」最終報告に代表されるように、大学が自らの価値を明確にし、社会や産業界との接続とともに、高等学校をはじめとした中等教育と大学教育の接続を明確にしなければならなくなっています。大学入試改革ばかりが目立っていますが、3つのポリシーの策定・公表の義務化などは、まさに大学教育そのものを自らが見直すことを求められたものでしょう。また、様々な答申や議論でSDの重要さが謳われてきましたが、今般の大学設置基準の改正で、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るためのSDが義務化されました。</p> <p>こうした急速な流れの中で、私たち大学職員はどのように働いていけばよいのでしょうか。7月の特別講演会では筑波大学の吉武博通教授に「大学職員に期待されるもの」と題して講演いただきます。今回のセミナーでは大学改革を実践する立場から、大学改革の可能性、改革の考え方、そこでの教員と職員の関わりはどうあるべきかを実践されている講師をお招きして、参加者の皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。</p> <p>1日目の基調講演は、地方の小規模大学ながらGGJ、AP、COC、COC+に採択されるなど、教職協働で地学(地域・大学)一体の大学改革、教育改革が注目されている共愛学園前橋国際大学の後藤さゆり副学長にご講演頂きます。後藤副学長は、大森昭生学長とともに大学改革を推進してこられた方です。地方・小規模大学の可能性、教職協働のあり方など、私たち大学職員に多くの示唆をいただけるものと思っております。</p> <p>2日目は、関西国際大学事務局長の横田利久氏にご講演いただきます。横田氏は長らく中央大学職員として活躍され、大学行政管理学会の会長を務めるなど、私たち大学職員をリードしてきた方です。2014年4月からは関西国際大学事務局長に就任され、濱名篤学長とともに同大学のさらなる発展に尽力されています。大学職員の大先輩である横田氏から私たち後輩に熱いメッセージをいただきます。</p> <p>今回のセミナーでも、本大学職員セミナーの特色である地方バーチャル大学を題材にしたワークショップを行う予定です。全国の国公立大学の職員が一堂に集まって活発な議論が行われることを期待しています。</p>										
講師・企画委員	後藤さゆり（共愛学園前橋国際大学副学長） 横田利久（関西国際大学事務局長） 近藤清之（法政大学学務部長・入学センター長）* 青木加奈子（高崎経済大学研究グループ 研究支援チーム）* 岩崎宏政（明治大学社会連携事務室事務長）* 大久保陽造（中央大学入学センター入学企画課課長）* 山本真一（桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授）*										
定員	40 名										
参加者	23 名										
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>悪かった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	とても良かった	78%	良かった	18%	あまり良くなかった	4%	悪かった	0%
満足度	割合										
とても良かった	78%										
良かった	18%										
あまり良くなかった	4%										
悪かった	0%										

(注) \*印は企画委員



事業名	第15回教員免許状更新講習（対面式）										
期日	8月1日（月）～7日（日）										
主題											
趣旨	本セミナーは、4日間の短期集中講習により、免許状更新に必要な必修12時間・選択18時間の講習修了を可能とし、大学の現役・元教員による教育問題へ講座提供を目的として開講される。										
講師	蔦澤元晴（早稲田大学大学院講師） 原田淳（立教大学講師） 谷川建司（早稲田大学大学院政治経済学術院客員教授） 栗野由美（東京造形大学教授） 齊藤祐子（前橋工科大学非常勤講師、早稲田大学芸術学校非常勤講師、武蔵野美術大学非常勤講師） 荒木晶子（桜美林大学リベラルアーツ学群教授）										
定員	290名										
参加者	199名										
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <table border="1"> <caption>アンケート結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>3.5%</td> </tr> <tr> <td>悪かった</td> <td>0.5%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	とても良かった	64%	良かった	32%	あまり良くなかった	3.5%	悪かった	0.5%
満足度	割合										
とても良かった	64%										
良かった	32%										
あまり良くなかった	3.5%										
悪かった	0.5%										

事業名	第16回教員免許状更新講習（対面式）										
期日	12月26日（月）～27日（火）										
主題											
趣旨	本セミナーは、対面式の教員免許状更新講習の選択科目2科目（全12時間）の講習を提供するものとして開講される。										
講師	栗野由美（東京造形大学教授） 齊藤祐子（前橋工科大学非常勤講師、早稲田大学芸術学校非常勤講師、武蔵野美術大学非常勤講師）										
定員	60名										
参加者	17名										
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <p>A pie chart titled 'セミナー満足度' (Seminar Satisfaction) showing the distribution of responses. The chart is divided into four segments: a large blue segment for 'とても良かった' (Very Good) at 59%, an orange segment for '良かった' (Good) at 41%, and two very small segments for '悪かった' (Not Good) and 'あまり良くなかった' (Not Very Good), both at 0%.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>悪かった</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	とても良かった	59%	良かった	41%	悪かった	0%	あまり良くなかった	0%
満足度	割合										
とても良かった	59%										
良かった	41%										
悪かった	0%										
あまり良くなかった	0%										

事業名	教員免許状更新講習（eラーニング）										
期日	平成28年4月16日（土）～平成29年3月31日（金）										
主題											
趣旨	本セミナーはインターネットを利用したeラーニングにより、免許状更新に必要な必修科目、選択必修科目、選択科目（全30時間分）を修了することが可能な講習である。自宅のパソコンでいつでも何度でも自由に受講ができる。試験はセミナーハウスのパソコンブースにて平日の都合の良い日時に受験ができ、合格者にはその場で履修証が授与される。										
講師	<p>蔦澤元晴（早稲田大学大学院講師）</p> <p>加藤彰彦（沖縄大学名誉教授、NPO法人ワーカーズコープ顧問）</p> <p>村瀬幸浩（“人間と性”教育研究協議会幹事、日本思春期学会名誉会員、季刊雑誌『sexuality』副編集委員）</p> <p>有賀清一（桜美林大学専任講師）</p> <p>大和久勝（特別ニーズ学会、日本生活指導研究所、全国生活指導研究会所属）</p>										
定員	各科目 2,000 名										
参加者	296 名										
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <p>A pie chart titled 'セミナー満足度' (Seminar Satisfaction) showing the following data: 'とても良かった' (Very Good) at 71%, '良かった' (Good) at 27%, 'あまり良くなかった' (Not very good) at 2%, and '悪かった' (Bad) at 0%.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>悪かった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	とても良かった	71%	良かった	27%	あまり良くなかった	2%	悪かった	0%
満足度	割合										
とても良かった	71%										
良かった	27%										
あまり良くなかった	2%										
悪かった	0%										

1. 平成 29 年 3 月 31 日現在入居状況

学校名	所属			計	性別	
	大学院生 (研究生を 含む)	学部生	客員研究員		男	女
首都大学東京	6	2	3	11	4	7
中央大学	3			3	2	1
東京工科大学		1		1	1	
電気通信大学	1			1	1	
明星大学	1			1		1
杏林大学	1			1	1	
合計	12	3	3	18	9	9

2. 国別留学生数

国名	計	大学院生	学部生	客員研究員
イタリア	1	1		
インドネシア	2	1	1	
カンボジア	2	1	1	
中国	11	8		3
ベトナム	1		1	
ロシア	1	1		
合計	18	12	3	3

平成 28 年度事業報告 附属明細書 4 留学生論文の表彰に関する事項

留学生論文コンクールは留学生の日本語による論文作成能力を向上させる機会を提供すると共に、日本留学の成果を発信し、国際相互理解及び国際交流を促進することを目的に平成 21 年度から実施している。今年度は全国 27 大学の留学生（出身国は 9 カ国 1 地域）から 33 作品の応募があり、下記のとおり受賞者 6 名が決定した。

1. 応募作品数：33 作品
2. 応募者内訳
  - (1) 大学数：27 大学
  - (2) 国籍：9 ヶ国 1 地域
3. 入賞作品一覧

賞別	氏名	大学名	国籍	論 題
金賞	陳 平	神田外語大学	中国	淡水資源の危機 —地下水の現状と今後の課題—
銀賞	李 貞善	東京大学 大学院	韓国	ソーシャル・キャピタルとしての「レジリエンス」 —国際社会の好循環に向けた復元力の構築—
銀賞	錢 正枝	京都大学	中国	茶の心でつなぐ —東アジア文化交流への試み—
銅賞	Maciejewska Beata	琉球大学	ポーランド	「無知」と「排他的な知識」が生み出すもの —世界的課題へのまなざしから—
銅賞	呉 怡恬	慶應義塾大学	中国	人は何故読書を必要とするのか —読書離れから考える人類の課題—
銅賞	Tommaso Barbetta	東京大学 大学院	イタリア	アルゴリズム化社会における技術の道徳と自由に ついて